

通期の見通し

平成 20 年度の販売電力量は、7 月中旬までの気温状況を踏まえ、平成 20 年 4 月に公表した想定値（2,960 億 kWh）を上回る 2,962 億 kWh（前年度比 0.4%減）を見込んでおります。

売上高については、電気事業において電気料収入の増加が見込まれることなどから、前回公表した想定値（連結：5 兆 8,500 億円程度、単独：5 兆 6,100 億円程度）を連結で 6 兆 500 億円程度、単独で 5 兆 8,000 億円程度に変更いたしました。

経常損益、当期純損益については、柏崎刈羽原子力発電所の運転計画をお示しできる状況になく、費用を予想することが困難であることから、平成 20 年 4 月時点において、通期の見通しを「未定」としておりました。現時点においても、この状況に変わりはありませんが、このたび、柏崎刈羽原子力発電所の運転計画を織り込んでいない平成 20 年度供給計画を元に電気料金の見直しを実施することや、燃料価格の高騰による収支への影響などを考慮し、通期の見通しについてもお示しすることといたしました。

その結果、費用面において、燃料価格の高騰などによる燃料費や購入電力料の負担が極めて大きくなることなどから、経常損益は、損失として、連結で 4,250 億円程度、単独で 4,800 億円程度、当期純損益は、損失として、連結で 2,800 億円程度、単独で 3,100 億円程度と試算しております。

< 通期の見通し >

	連 結	単 独
売 上 高 (当初見通し)	6兆 500億円程度 (5兆8,500億円程度)	5兆8,000億円程度 (5兆6,100億円程度)
経 常 損 益 (当初見通し)	4,250 億円程度 (未 定)	4,800 億円程度 (未 定)
当期純損益 (当初見通し)	2,800 億円程度 (未 定)	3,100 億円程度 (未 定)

< 第 2 四半期累計期間の見通し >

	連 結	単 独
売 上 高 (当初見通し)	2兆8,450億円程度 (2兆8,350億円程度)	2兆7,300億円程度 (2兆7,250億円程度)
経 常 損 益 (当初見通し)	1,700 億円程度 (600 億円程度)	2,000 億円程度 (850 億円程度)
四半期純損益 (当初見通し)	1,100 億円程度 (400 億円程度)	1,300 億円程度 (550 億円程度)